

9 質問と答弁

【幸せLife plan 部会】

「ヘルプマーク・ヘルプカードの」更なる周知の方法」について」

質問者：宇都宮市立星が丘中学校

2年 真壁 舜

宇都宮市立豊郷中学校

2年 本間 桜楽



私たちは「ヘルプマーク・ヘルプカードの」更なる周知の方法」について提案します。

今回、私たちは「すべての人にとってやさしいまち」について調べました。担当の方に話を伺う中で、障がい者に必要なシンボルマークには、たくさんの種類があることを知りました。私たちは、その中の一つの「ヘルプマーク」「ヘルプカード」に焦点を当てました。

「ヘルプマーク」「ヘルプカード」とは、障がい者手帳をお持ちの方や見た目ではわかりづらい内部障がいや難病を抱えた方などが、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせ、困ったときに周囲の人から適切な支援を得られやすくするものです。

本市では2015年9月にヘルプカードを、栃木県では2017年8月からヘルプマークを導入しました。

導入されて間もないため「ヘルプマーク」「ヘルプカード」の存在を認識している方が非常に少ないという現実があります。実際に私たちも、このマークやカードのことを知りませんでした。この現状の中でヘルプマークを付けている意味はあるのでしょうか。

そこで「ヘルプマーク」「ヘルプカード」の認知度を上げるべく、私たちは以下の2つの事を提案します。

提案に当たり、興味を持ってわかりやすい方法が効果的であると考えました。

1つ目にSNSを活用することを提案します。インスタグラムツイッター、フェイスブックなどの人気の高いアプリで「ヘルプマーク」「ヘルプカード」についての投稿ができるハッシュタグを付け、多くの人に投稿してもらうことで認知度を高めることができます。

2つ目に「ヘルプマーク」「ヘルプカード」の配布場所をわかりやすく記載したマップを作ることを提案します。それらを、多くの人を利用する公共の施設や交通機関等に掲示することで「ヘルプマーク」「ヘルプカード」を必要としている方も、一般の方もその存在を知ることができます。

以上の提案を実行することにより「ヘルプマーク」「ヘルプカード」の更なる周知につながり、助け合いの心が生まれ「やさしさはぐくむ福祉のまちづくり」の活動を推進していくことができるのではないのでしょうか。

以上で提案を終わりにします。よろしくお願いいたします。

【高齢者がいきいきと働き続けられる環境づくりについて】

質問者：宇都宮市立姿川中学校 2年 阿部 竜乃介

宇都宮市立雀宮中学校 2年 築川 陽亮

私たちは「高齢者がいきいきと働き続けられる環境づくり」について提案します。

今回、私たちは高齢者がいきいきと生活するための方法の1つとして、高齢者の働き方について調べました。その中で、高齢者の3人に2人が「65歳になっても働きたい」または「働けるうちはいつまでも働きたい」と考えていることがわかりました。近年、日本は高齢化が進んでいるため、今後、働きたい高齢者はますます増え、高齢者の働き場が不足してしまうのではないかと思います。また高齢者が再就職をしようとしたとき、自分の体力や技術に合った働き場を見つけにくいという問題があることや、人材不足の企業が多いことも知りました。

そこで企業が高齢者の働きやすい環境をつくる意識改革に努めることや、高齢者が自分に合った仕事を見つけられる場を設けることが必要だと考えました。これは人材が不足している企業と、仕事に就きたい高齢者お互いにとって良いことだと思います。そこで、次の2つの事を提案します。

1つ目に、高齢者を積極的に雇用し、国の「高齢者雇用開発コンテスト」で入賞した宇都宮市の企業を、市のホームページや広報紙などに取り上げることを提案します。実際に、平成28年度に優秀賞を受賞した企業があります。優れた取り組みを周知することが、宇都宮市の高齢者の働く環境をよりよくすることにつながると思います。

2つ目に、高齢者向けの合同面接会を開くことを提案します。この面接会では、様々な企業の説明を聞いたり、質問したり、採用の面接を受けることができます。また、高齢者の再就職に関する様々な情報をえられるようにすることや、相談できる場も作ります。そして、再就職を希望する場合は、1か月程度の仕事体験を申し込めるようにします。体験中は、高齢者と企業が互いに納得してスムーズに再就職ができるように、市が双方の相談を受けるなどの支援をします。このような場や体験の機会を設けることで高齢者が自分に合った仕事を見つけることができ、宇都宮市内の企業の人手不足が減る効果も得られると思います。

以上で私たち「幸せLife plan部会」の提案を終わります。よろしくお願ひします。



答弁者：佐藤 栄一 宇都宮市長

幸せ^{ライフ} ^{プラン}plann部会の「ヘルプマーク・ヘルプカードの更なる周知の方法」の全ての人にとって優しい街をつくりたいという思いや「高齢者がいきいきと働き続けられる環境づくり」の高齢者が活躍できる社会をつくりたいという強い気持ちが込められた若者らしい視点から提案をいただき大変心強く感じております。

それでは「ヘルプマーク・ヘルプカードの更なる周知の方法」のご質問にお答えいたします。

まず「SNS^{エスエヌエス}を活用した認知度の向上」についてであります。これまで、本市におきましてはヘルプマークやヘルプカードについて、その意味や必要性などを啓発用チラシや広報紙などを通じ、周知・啓発を行ってきたところであります。障がいのある方などが、普段の生活の中で、周りの方々の手助けをより受けやすくなるよう、これまで以上に、若い方を含めたより多くの方の認知度を高めていくことが必要であると考えているところであります。

若い方を中心に多くの方が利用しているインスタグラムやフェイスブックなどにヘルプマークやヘルプカードの画像や記事を投稿することは、認知度の更なる向上に向け、大変有効な手段でありますことから積極的に取り組んでまいります。

次に「配布場所をわかりやすく記載したマップの作成・掲示」についてであります。ヘルプマークやヘルプカードの配布にあたりましては、これまで地区市民センターや出張所などの配布場所を啓発用チラシやホームページなどにより、周知してきたところであります。配布場所を記載したわかりやすいマップを作成し、多くの方が利用するJR宇都宮駅などの交通機関等に掲示することにつきましては、必要としている方や一般の方にヘルプマークやヘルプカードの存在を、これまで以上に知っていただくことにつながりますことから、積極的に取り組んでまいります。今後とも、障がいのある方もない方も、お互いに尊重しあい、助け合いながら、共に生きていく社会の実現に向け、取り組んでまいります。

次に、「高齢者がいきいきと働き続けられる環境づくりについて」であります。少子・高齢化などにより人口減少が進展し、これに伴い、労働力人口の減少が進行する中、高齢者が働きやすい環境をつくり、働きたいと考える多くの高齢者に活躍していただくことは、高齢者にとっても企業にとっても大変良いことであると認識しております。

このような中、議員ご提案の、「国の『高年齢者雇用開発コンテスト』において入賞した市内企業の周知」についてであります。入賞企業の好事例を紹介することは、市内企業における高齢者の雇用促進や働きやすい職場環境づくりに向けた意識改革にもつながる素晴らしい取組でありますことから、今年度中に、市ホームページに掲載するほか、今後、企業向けの啓発冊子などを通じて、市内企業に向けて周知啓発を行ってまいります。

次に、「高齢者向けの合同面接会の開催」についてであります。本市では、高齢者の就職を支援するために、今までの職業経験を生かした応募書類の書き方や面接の受け方などを指導するセミナーや、個別にアドバイスを行う就職相談を実施するとともに、実際に仕事を紹介するハローワークなどの関係機関と連携しながら、高齢者の就職に向けた様々な支援を行っているところであります。こうした中、高齢者が自分に合った仕事を見つけ、働き続けていくためには、高齢者と企業がお互いに求める条件などについて、納得した上で、仕事に就いていただくことが大変重要でありますことから、議員ご提案の「合同面接会」を含めより効果的な支援方法につきまして、検討させていただきたいと思っております。

今後とも、国などの関係機関と連携しながら、働く意欲のある高齢者が、その能力を生かし、いきいきと働けるよう取り組んでまいります。

【PIGUNO 宮 48 部会】

【うつのみやジュニア芸術祭を通じた文化の振興 について】

質問者：宇都宮市立宮の原中学校

2年 周藤 航太

宇都宮市立鬼怒中学校

2年 郷間 ひなた



私たちは、「うつのみやジュニア芸術祭を通じた文化の振興」を提案します。

今回私たちは、研修会で宇都宮の文化について調べました。調べていくと、うつのみやジュニア芸術祭の宣伝と宇都宮エスペール賞の認知度の現状を知りました。昨年度までのうつのみやジュニア芸術祭のポスターは市内に300枚配布されていますが、来場者数及び参加者数は3万728人にも上りました。一方、宇都宮エスペール賞は芸術家の育成に力を入れていて、その後の支援も充実している賞ではありますが、一部の人にしか知られていないことが分かりました。

そこで私たちは、うつのみやジュニア芸術祭の「ポスターの掲示場所の拡大」と「うつのみやジュニア芸術祭と宇都宮エスペール賞のコラボレーション」を提案します。二つの大きなイベントを組み合わせ、活用することによって、より多くの人々に宇都宮の文化を通して地域への興味と愛着を持ってもらえるはずです。

まず、うつのみやジュニア芸術祭の「ポスターの掲示場所の拡大」についてです。掲示場所としては商店街や商業施設などの人が多く集まる場所がよいと考えます。今までよりも、人の目に触れる機会を増やすことができます。

次に「うつのみやジュニア芸術祭と宇都宮エスペール賞のコラボレーション」についてです。例としては、うつのみやジュニア芸術祭で絵画の展示をしているときに宇都宮エスペール賞を受賞した方の音楽を流したり、作品の展示をしたりするなどです。このコラボレーションが実現すれば、学生は受賞者の生の作品に触れることによって学びを得られ、受賞者は今の学生の感性や努力を知ることができると思います。また宇都宮の人々は、同じ宇都宮芸術家の方々がどのような活躍をしているのかを身をもって感じるすることができます。

もっと多くの人々に宇都宮ジュニア芸術祭と宇都宮エスペール賞を知ってもらい、文化を振興させることによって、宇都宮に愛着が湧くと考えます。

以上で提案を終わります。

よろしく申し上げます。

【宇都宮の郷土料理を子どもたちに認知してもらう手段について】

質問者：宇都宮市立星が丘中学校 2年 小菅 颯

宇都宮作新学院高等学校 1年 井上 こだま

私たちは「宇都宮の郷土料理を子どもたちに認知してもらう手段について」を提案いたします。今回私たちは、研修会で郷土料理について勉強しました。調べていくと、学校給食では食材を食べやすくアレンジした、しもつかれやアユの塩焼き、モロのフライなどの郷土料理が提供されていることを知りました。また去年は、市内の小中学校で様々な地方の郷土料理が給食に提供されたそうです。しかし、現状では宇都宮の郷土料理であるしもつかれが給食で提供された時には、家庭であまり食べる機会のない子どもたちは、食べられていないため、残してしまう児童生徒もいるということを知りました。こういった現状を打破するために、郷土料理の良さをもっと家庭に向けて周知し、家庭でも食べる機会が増えることで郷土料理が好きになる子どもを増やすことができると思うので、次の手段を提案します。

提案にあたっては、小中学生のうちに郷土料理に触れることで、郷土料理の良さを次世代へつないでもらえると考えました。そこで、子どもたちが関心を持てるような手段として『学校給食で共通献立による宇都宮ゆかりの郷土料理を提供すること』を提案します。提案にあたっては、郷土料理を子どもたちに伝える方法として、次のようなことを考えました。その方法は、市内の小中学校の児童生徒全員に、同じメニューの郷土料理を同じ時期に食べてもらうことで、認知度を上げるというものです。さらに、話題性が上がり、学校のみならず、家庭や地域でも郷土料理に対する関心が高まると考えます。

さらに、給食を提供した日に、その郷土料理の説明や家庭でも手軽に作ることができるレシピを載せたプリントを配布することも有効だと考えました。各家庭でも郷土料理を作り、触れて、興味を持ってもらい、次に提供されたときに苦手な子どもでも食べてもらえるようになると思います。

これらの方法で、次世代の子どもたちにも郷土料理を伝承し続けていけると考えました。

私たちにとって郷土料理は、昔から伝わってきた大切な料理であり、故郷を思い出す味なので、無くしてはいけないものだと思います。宇都宮の郷土料理を途絶えさせないためにも、未来につながるこの提案に取り組んで欲しいと思います。

以上で提案を終わりにします。

よろしく申し上げます



答弁者：佐藤 栄一 宇都宮市長

PIGUNO^{びぐのみや} 48^{フォーティエイト} 部会の宇都宮の文化や郷土料理を大切に思う気持ちにあふれたご提案をいただき、大変うれしく感じております。

「うつのみやジュニア芸術祭を通じた文化の振興について」のご質問にお答えいたします。

ジュニア芸術祭は、児童生徒の皆さんが音楽や演劇をはじめ、美術や書道、文芸などの芸術活動に日頃から一生懸命取り組んでいる成果を発表し合ったり、市民の皆さんに鑑賞していただくことを通じて、本市の文化の振興や、将来を担う人材を育成することを目的として、平成11年度から毎年開催しております。

ジュニア芸術祭を周知するポスターにつきましては、これまで、地区市民センターや図書館など公共施設を中心に掲示してきたところではありますが、今年度は、ジュニア芸術祭が20周年を迎える記念の年であり、これを機会に、より多くの方々にジュニア芸術祭を知っていただくため、議員ご提案の商店街や商業施設などにポスターを掲示することはたいへん効果的であると考えますことから、ポスター掲示施設の拡大について検討、実施してまいります。

次に、「うつのみやジュニア芸術祭と宇都宮エスペール賞のコラボレーションについて」であります。本市におきましては、平成13年度より、音楽や美術など芸術の創造活動に優れ、将来の活躍が期待できる本市ゆかりの芸術家に「宇都宮エスペール賞」を授与し、文化会館でのリサイタルや美術館での展覧会を開催する機会を提供するなど、芸術活動への積極的な支援を行っております。これまで、豊郷中学校出身で国際的なチェロコンクールにおいて日本人として初めて優勝する快挙を成し遂げ、世界各国で演奏活動を行っているチェロ奏者の宮田^{みやただい}大さんや、旭中学校出身で、国内外から高い評価を受けているバレエ団の主演を務め、若手の育成にも力を注いでいるバレエダンサーの^{おそぎわゆうすけ}遅沢佑介さんなど、皆さんの先輩13人がエスペール賞を受賞し、現在、素晴らしい活躍をされております。

議員ご提案のジュニア芸術祭においてエスペール賞受賞者の音楽を流したり、作品を展示したりすることは、皆さんの先輩の質の高い芸術活動を身近な場所で直接、親しみ、触れることで、豊かな感性や創造性を育み、芸術文化に対する意識の向上に有意義であると考えますことから、今年度実施を予定するジュニア芸術祭の20周年記念事業の中で、エスペール賞受賞者の紹介や発表などが出来るよう、実現に向け、取り組んでまいります。

今後とも、ジュニア芸術祭やエスペール賞をより多くの児童生徒や市民の皆さんに知っていただき、一層の文化の振興を図ってまいりますので、皆さんの積極的な参加を期待しております。

次に「宇都宮の郷土料理を子どもたちに認知してもらう手段について」のご質問にお答えします。

本市の学校給食におきましては、全校に配置している 栄養士がそれぞれ工夫を凝らしながら、献立を考え、品質が良く、新鮮なニラ、ネギ、アスパラ、トマトなど、農業大国宇都宮の豊富な食材を使用するほか、自校炊飯などにより、できたてでおいしい給食を提供しており、その中で、自児童生徒の郷土愛を育むことも重要であると考えておりますことから、郷土料理を献立に取り入れているところであります。

こうした取組の結果、毎年 児童生徒を対象に実施しているアンケート調査を見ますと、「給食に出る行事食^{ぎょうじ}やしもつかれなどの郷土料理を知っている」と回答した割合が調査を始めた平成21年度の80パーセントから、昨年度は87パーセントに上昇したものの、「家庭で行事食や郷土料理が話題として出る」と回答した割合は、60パーセントに達していない状況にありますことから、今後とも、より一層、郷土料理への関心を高め、理解を深める必要があると認識しております。

議員ご提案の「学校給食で共通献立による宇都宮ゆかりの郷土料理を提供する」ことについてありますが、全校で同じ献立の郷土料理を同時期に提供するとともに、各家庭にそのレシピ情報を発信することは子どもたちや保護者の皆さんが郷土料理の重要性などを再認識する機会に繋がり、宇都宮の郷土料理を広く知ってもらう手段として大変有効であると考えております。

現在、本市におきましては、宇都宮の特色を生かした和食の献立である「宮っ子ランチ」を全校共通メニューとして同時期に提供できるよう、新たに作成しているところであり、その中に、しもつかれやモロのフライなどを含めた宇都宮ゆかりの郷土料理を取り入れることを検討してまいります。

また「レシピを載せたプリントを配布すること」につきましては、この給食をきっかけとして、宇都宮の郷土料理を家庭でも話題にし、料理をして食べていただけるよう、郷土料理の由来を解説した一口メモやレシピを配付するとともに、子どもたちや保護者だけでなく、広く市民の皆様にも知っていただけるよう、日本最大の料理レシピ検索・投稿サイトであるクックパッドに開設している「宇都宮市学校給食キッチン」においても紹介するなど、周知啓発に努めてまいります。

今後とも、学校給食を通して先人が大切にしてきた宇都宮の郷土料理を故郷^{ふるさと}の味として次世代にも伝えていけるよう努めてまいります。

【RPE 部会】

「中心市街地の緑化について」

質問者：宇都宮市立陽西中学校

2年 宮本 翔

宇都宮短期大学附属高等学校

2年 亀井 利奈



私たち「RPE 部会」は、宇都宮の環境を守っていききたいという思いと部会のリーダーの愛称から、この部会名を付けました。

それではまず、「中心市街地の緑化について」提案します。今回私たちは、研修会で宇都宮の緑化について勉強しました。

調べていくと、宇都宮市では、中心市街地の緑化のため、シンボルロードや東武馬車道通りなどでハンギングバスケットや花壇の設置をしていることや、市民との協力を目的として宇都宮市花と緑のまちづくり推進協議会が活動を行っていること、また、多くの人に花と触れ合ってもらえるよう、花と緑のフェスティバルうつのみやを開催していることがわかりました。しかし、実際に中心市街地を歩いてみると、まだ緑が少ないように感じます。また、イベントや緑化活動に参加しているのは高齢の方が多く、若者の参加が少ないので、これからの若者の社会参加を積極的にするために、次のことを提案します。

まず、中心市街地の花を増やすために新たな路線にハンギングバスケットや花壇を設置してはどうでしょうか。そして、水やりのためのじょうろを設置し、登下校中の学生や買い物客、観光客などに中心市街地の緑化の維持管理に協力してもらうことで、宇都宮市のテーマである市民との協働ができるのではないのでしょうか。

次に、花と緑のフェスティバルうつのみやに中高生が参加できるブースを設けます。これは、宇都宮市が行っている活動に若者も参加して興味を持ってもらうことで、若者の緑化に対する意識が向上すると考えたからです。花と緑のフェスティバルうつのみやでは、苗木や花苗の配布があるので、そこで中高生が中心となって募金の呼びかけを行い、今後も花や緑を増やせるようにしていきたいと考えています。また、私たち自身、登下校中、建物の日陰よりも木の日陰のほうが、涼しく感じられるので、イベントで緑のカーテンの効果についても紹介していきたいです。

また、イベントのキャッチフレーズを募集し、宇都宮市花と緑のまちづくり推進協議会のホームページや広報紙で使ってもらうことで、都市緑化や宇都宮市花と緑のまちづくり推進協議会により親しみやすさを感じてもらえるのではないかと思います。

以上の活動により、若者の積極的な社会参加につながり、宇都宮市の中心部が緑いっぱいになるのではないのでしょうか。

以上で提案を終わりにします。よろしくお願ひします。

【小中学生を対象にしたゴミの分別についての冊子を利用した広報案について】

質問者：宇都宮市立横川中学校 3年 桑野 知宣
宇都宮市立晃陽中学校 2年 鈴木 菜摘

次に、「小中学生を対象にしたゴミの分別についての冊子を利用した広報案」を提案いたします。今回私たちは、ゴミの分別の問題について話し合いました。

調べていくと宇都宮市は5種13分別で、分別にかかる労力が大きいため、分別を間違ってしまうご家庭が多いと感じました。

平成28年度の調査では、宇都宮市内の家庭から出される焼却ごみには、約12%の紙類などの再利用できる資源物が含まれているほか、生ごみの約7割がもったいない生ごみであり、多くの食品が賞味期限切れなどにより焼却されています。また、平成29年度に分別講習会などで行われたごみの分別のアンケートの結果によると、分別していると回答した人の68%の人しか正しい分別をできておらず、正しい分別方法を理解してもらう必要があると考えました。

そこで私たちは家庭から宇都宮市民のゴミの分別に対する意識を高めるために、小学生、中学生を対象とした資源とゴミの分別についての冊子を制作・発行し、各学校に配布することを提案致します。

具体的には、小学生は漫画やクイズなどを盛り込んだ簡単な形式にし、中学生は文章や絵などを発展させてより踏み込んだ内容にします。全冊子の共通内容としては、ゴミの分別の大切さや、それによる環境へのメリット、普段の生活を振り返るためのチェックシートを、巻末にはさんあ〜るアプリや宇都宮市のホームページのQRコードも掲載し、小学生、中学生で冊子の内容を段階的に変更したものを、各学校に配布することで、学生を通してその保護者にも周知ができると考えました。

この広報案を通して、小学生、中学生がゴミの分別に興味を持ち、理解を深め、結果的に宇都宮市民が正しいゴミの分別を実行することで、環境を考えた行動ができるようになり、もったいない生ごみや資源の焼却量を減らすことができると思います。以上で提案を終わりにします。よろしくお願いいたします。



答弁者：佐藤 栄一 宇都宮市長

アールビーイー
R P E 部会におかれましては、「中心市街地の緑化」や「ごみの問題」について真剣に考え、ご提案いただきましたことを、大変心強く感じております。

それでは「中心市街地の緑化について」のご質問にお答えいたします。

まず「ハンギングバスケットや花壇の設置」についてであります。本市におきましては、多くの人が訪れ、市民の緑化への関心を高めるうえで効果的な中心市街を、花いっぱいのもちにするため「まちなかハンギングバスケット大作戦」において、市民の手で作成したハンギングバスケットを街路灯に設置するほか、彩り豊かな「まちなか花壇」を企業・団体・専門家の方々と協力しながら設置するなど、緑化の普及啓発に取り組んでおります。

これまで、シンボルロードや東武馬車道通りにおいて水やりなどの維持管理を沿道の方々にご協力いただきながら、実施してきたところでありますが、今後は、更なるエリア拡大に向け中高生の通行量が比較的多く、若い方々の参加がより期待できるユニオン通りでの実施を進めるなど、市民との協働による「中心市街地の緑化」を充実させてまいります。

また、「じょうろの設置」のご提案につきましては、中心市街地において登下校する学生などが緑化活動へ参加するための機会づくりとしては大変有効な対応策と考えられますことから、今回のご提案をきっかけとし、今後より多くの方々に参加できる仕組みにつきまして検討を進めてまいります。

次に、「花と緑のフェスティバルうつのみや」についてであります。このフェスティバルにおきましては、これまでも宇都宮白楊高校の生徒の皆さんに大勢おおぜいご参加ご協力いただき、苗木・花なえぎ・花はななえの配布や募金の呼びかけ、会場内の清掃などに取り組んでいただいたところであります。

毎年、フェスティバルに訪れる来場者やボランティアスタッフは、若い方々との出会いや交流を大変楽しみにしておりますとともに、より多くの中高生の参加は、会場内に更なる活気をもたらしてくれると確信しておりますことから、10月開催予定のフェスティバルから早速、ジュニア未来議員の皆さんをはじめとする多くの中高生が参加できるブースを確保できますよう、主催者の「宇都宮市花と緑のまちづくり推進協議会」とともに取り組んでまいります。

また、「キャッチフレーズの募集」につきましても、若い方々に親しみやすさを感じてもらう上で大変有効なご提案であるため、まずは10月開催予定のフェスティバルに向けて、ジュニア未来議員の皆さんにご応募していただくなど、実現に向けて主催者と進めてまいります。

今後とも、若い皆さんからの素晴らしいアイデアなどを生かしながら、市民総ぐるみで「緑豊かなまちづくり」に取り組んでまいります。

次に「小中学生を対象にしたゴミの分別についての冊子を利用した広報案について」のご質問にお答えします。

本市におきましては、限りある貴重な資源を繰り返し利用する循環型社会の実現を目指しているところであり、そのような中、みなさんの通っている学校をはじめ市内すべての小中学校におきましても、児童生徒のみなさんが資源とごみの分別を実践していると伺い、大変感謝しているところであります。

一方、議員ご指摘のとおり、依然として焼却ごみの中には、資源としてリサイクルできる紙類などに加え、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品が多く含まれておりますことから、ごみの減量化・資源化に向け、更なる分別の徹底が必要であると認識しております。

このようなことから、市民のみなさまには、講習会の開催や、アプリの提供など様々な機会や手法を通じて資源とごみの正しい分別へのご協力を呼びかけているところであります。

また、小学4年生を対象として、社会科補助教材「わたしたちのくらしとごみ」の配布や、小中学校を対象とした、環境出前講座での資源やごみの実物を使用したごみ分別ゲームなどの体験学習により、ごみを減らすことの重要性について理解を深めてもらう活動に取り組んできたところであります。

本市といたしましても、小中学生が学校はもとよりご家庭におきましても、保護者のみなさまと一緒にごみの分別に取り組んでいただきたいと考えておりますことから、さっそく市ホームページのキッズページにおいて小中学生向けの掲載内容を充実させるとともに、今年度作成する社会科補助教材において、小学4年生が楽しく学べる工夫をするなど、それぞれの学齢に合わせた資料づくりに取り組んでまいります。

今後とも、正しい分別のより一層の定着に向け、小中学生をはじめ、市民のみなさまが本市の豊かな環境を大切に考え、積極的に楽しく分別に取り組めるような周知啓発に努めてまいります。